

第 93 回岩手医科大学歯学会例会抄録

日時：令和 4 年 11 月 26 日（土）午後 1 時より

会場：岩手医科大学歯学部 講堂（A 棟 4 階）

特別講演

「超高齢社会における歯科医療の役割」

The Role of dentistry in a Super-Aging Society

○小林 琢也

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野

世界最高の長寿国となったわが国の平均寿命と健康寿命の差は約 9 年です。医療の発展と国民の健康意識の高まりにより両者の差は縮まりません。これから 20 年は高齢者数が増加すると推計され誰もが体験したことのない高齢社会となります。全ての高齢者が元気に最期を迎える「ピンピンコロリ」を本人も家族も望むことが多いです。しかし、ほとんどの高齢者が多くの疾患と老年症候群、日常生活障害を抱え、しばしば救急搬送され「ネンネンコロリ」で最期を迎えます。人生 100 年時代と言われるこれからの時代に歯科医療はどのように変化していく必要があるでしょうか。

高齢者の診療はこれまでの臓器ごとに機能改善する医療でした。これから求められるのは、口腔も含めた臓器横断別で生活環境にも配慮した包括的な医療を多職種と連携しながら提供する医療です。また、疾病に罹患したら治す治療医学が主流でしたが、予防医学の重要性が再認識され、「予防リハビリテーション」に重点を置くようになるでしょう。予防リハビリテーションは、未病や疾病の重症化予防のために生活習慣の改善、健康教育、早期発見、早期治療などを行う総称です。国も「病気になる身体を創りのための医療を発展させる」という方向に舵を切りました。そのなかで歯科医療はど

のように対応していくべきでしょうか。これまで歯科医療は、周産期から看取りまで国民のライフステージに寄り添った医療展開を実践してきました。未病の対策と改善において歯科は大きく貢献できる分野です。歯科が蓄積してきた知識と技術を広く啓蒙し提供することで「NCDs」, 「ロコモティブシンドローム」, 「サルコペニア」, 「フレイル」の疾病予防に結び付けることができます。本講演では、「最期まで健康でいたい」という患者の望みを叶えるために、私たち歯科医師は全人的医療を多職種と連携して実践していくことが大切であることをお伝えしました。

優秀論文賞受賞講演

1. PMA 誘導性分化型マクロファージに由来する CCL20 は、PI3K, MEK1/2, および NF- κ B 依存的に HSC-4 細胞における TGF- β 1 誘導性抗腫瘍因子 CXCL14 の発現を抑制する

CCL20 derived from PMA-differentiated macrophages abrogates TGF- β 1-induced expression of cancer progression suppressor CXCL14 in HSC-4 cells in PI3K-, MEK1/2-, and NF- κ B-dependent manners

○武田 啓

青森県立中央病院歯科口腔外科, 岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

【背景】

癌細胞の悪性化において、上皮間葉転換 (EMT) は重要な役割を果たしている。我々はこれまでに、ヒト口腔扁平上皮癌 (hOSCC) 細胞において、TGF- β 1 刺激による EMT が誘導